

読書報告  
『どもる体』伊藤亜紗  
医学書院 2018年

報告者 池谷尚美

2020年9月6日

# 著者：伊藤亜紗

- 東京工業大学 リベラルアーツセンター 准教授
- 専門：美学、現代アート
- 自分でもアート作品を作る。
- 様々な当事者にインタビューして研究。
- 主な著作：『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社）、  
『みえるとか みえないとか』（アリス館）



- 当事者とのインタビューを本にしている。
- 治療するのとは別の、向き合い方の例を探そう！



# 『どもる体』

- 医学書院「ケアをひらく」シリーズの1冊。
- 8名の方にインタビュー。(八木智大さん、ドミニク・チェンさん、高山なおみさん他の方。伊藤さん自身も「隠れ吃音」)
- 「どもる」という身体経験にフォーカス。(p.27)
- 「しゃべる」の多様性に光を当てる (p.12)
- 吃音は人によって**症状や付き合い方の多様性が**
- **きわめて大きい障害。**

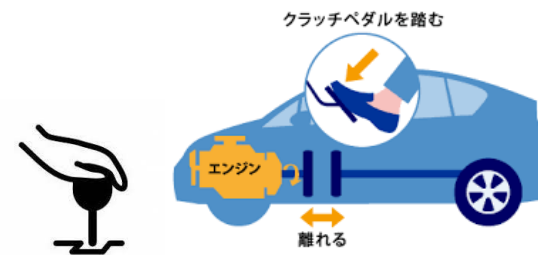


# 『どもる体』

- (帯文)
- 「治る/治らない」とは全く別のところから迫る身体論的吃音論
- 「楽に話せば連発だ。意志を通せば難発だ。言い換えすれば自分じゃない。リズムに乗れば乗っ取られる。とにかくしゃべりは窮屈だ。」
- 三好愛さんの表紙絵。
- 「言葉の代わりに体が伝わってしまう」
- 吃音を相対化する視点を手に入れた。



# 『どもる体』序章 身体論としての「どもる」



- 「しゃべる」
- 言葉と体の関係は一通りではない。バグやフリーズを抱える体
- 「体のコントロールを外れたところ」に生起する経験
- オートマ制御（話すことを意識してコントロールしていない）
- マニュアル制御（話すことを意識的に制御している）
- 吃音：100人に1人の障害。独自の回避方法など、様々な工夫。

「どもる」=不意にやってくる「私でない私」(p.30)

# 『どもる体』1. あなたはなぜしゃべれるのか

- 「しんぶん」2つの「ん」
- 2番目の「ん」は直後の「ぶ」に繋がる
- 話すことの調整:発声器官のモーフィング
- ○「かんださん」×「かたださん」
- Vacaloid開発 モーフィング部分を加味した音声素片を備えることで人間らしく歌うことができる。
- 「初音ミクが直面していた問題は、吃音の人と同じだった」(p.63)

3つの「ん」  
[m][n][ng]

## 『どもる体』2. 連発

連発=バグ  
身体運動上のアイドリング

- 「しゃべる」身体運動そのものに生じるエラー
- 「言葉を伝えようとして、間違っ言葉ではなく
- 肉体が伝わってしまった」状態。
- 意図していないのにそうになってしまう「エラー」の連続
- 思考が爆発する(内部で興奮している)場合にも生じる
- 本人が言いたいことを周囲が言ってあげる介助もできる(「〇〇のこと?」)⇒自分で言いたい人、「えー」などのフィラーを付けて言う工夫をしている人もいる。

## 『どもる体』3. 難発

難発=フリーズ

- 連発を回避するための対処。
- そのために最初の語が出にくくなる
- 評価する他者の視点がインストールされることで発生する。
- (一人ごとなら難発しない)
- スイッチ「周囲の人が自分に向けている逃れようのない期待」
- しかし、期待の度合いが高い時だけに発生する物ではない。
- (話者交替のサインやタイミングが読めない) (p.114)
- 会話より対話のほうが良い。⇒周囲の状況の影響を受けやすい



## 『どもる体』4. 言い換え 体を裏切る工夫

### 言い換え

⇒肯定派も否定派もいる。

- 難発を回避するための工夫。
- 言いにくいことばを別の言葉に置き換え
- 症状だと感じる人、感じない人もいる
- 類語辞典系の言い換え: 飛行機⇒航空機
- 国語辞典系の言い換え: 利き手⇒普段使っている手
- Tell⇒show 「これです」(言わず、見せる)
- 音読が苦手(言い換えができない)・苦手でない当事者(頭の中の準備がない)

## 『どもる体』5. ノる なぜ歌うときはどもらないのか

- 難発を回避するための工夫。
- 「演技」もどもりが出にくい状況の一つ
- 「ノる」こと⇒運動に反復性の構造を与えること

ノる=体の部分的なアウトソーシング

- しゃべりに勢いをつける、身振り手振り、運動、「えーと」
- しゃべり方のパターンを身につけることが助けになる。
- (役になりきってセリフを言う時、プレゼンの時も)

## 『どもる体』6. 乗っ取られる 工夫の逆襲

- 「ノる」社会生活のために行う「演技」
- 日常生活の特定の場面でのキャラクターを使うことで、しゃべりがより楽になる (p.194)
- そのような演技を「選択させられてしまっている」 (p.199)
- 吃音回避のためのうまくいく工夫が「私の主体性を奪っていく」 (p.203)

乗っ取り=自分が機械になる  
工夫が牙をむく

## 『どもる体』6. 乗っ取られる 工夫の逆襲

- 「ノる」社会生活のために行う「演技」
- 日常生活の特定の場面でのキャラクターを使うことで、しゃべりがより楽になる (p.194)
- そのような演技を「選択させられてしまっている」 (p.199)
- 吃音回避のためのうまくいく工夫が「私の主体性を奪っていく」 (p.203)

乗っ取り=自分が機械になる  
工夫が牙をむく

## 『どもる体』7. ゆらぎのある私

- 言い換え警戒派⇒ある人にとっては「言い換え」は反則。吃音を隠すことは、本当の自分ではない。(p.225)
- 言い換え共存派
- ⇒それもまた自分。「評価」ではなく、事実として自動化している。

ドミニク・チェンさん「吃音と共生しながら話すことは、もう一人の自分と調整しながら話す感覚」「一生を通して考えられる謎」  
(p.240-241)

## 『どもる体』7. ゆらぎのある私

- 言い換え警戒派⇒ある人にとっては「言い換え」は反則。吃音を隠すことは、本当の自分ではない。(p.225)
- 言い換え共存派
- ⇒それもまた自分。「評価」ではなく、事実として自動化している。

ドミニク・チェンさん「吃音と共生しながら話すことは、もう一人の自分と調整しながら話す感覚」「一生を通して考えられる謎」  
(p.240-241)

## 『どもる体』 「他人」と「他者」

- 吃音を相対化する視点を得る
- 三好さんの絵（表紙絵）当事者には描けない。
- 当事者が持つ経験のディテールが抜けている。
- 共感してくれる「他者」ではなく、「他人」の力の実感
- （もちろん、他者の関わりは重要、だけどそういう距離を持った立場から鏡を向けられることが大事なこともある？）



玄関から外に出ようとしていたのに、裏口から不意に扉を開けられて  
外の風が入ってきた (p.251)  
偶然に引いたおみくじこそ真実を語っていると思える (p.251)